令　和　７　年

第８回教育委員会会議録

（開会　令和７年７月25日）
（閉会　令和７年７月25日）

岐阜県可児市教育委員会

令和７年７月25日午前９時00分開会
会場：市役所５階第１委員会室

出席委員

堀部好彦君（教育長）　伊藤小百合君（教育委員）
梶田知靖君（教育委員）　小栗照代君（教育委員）
長井知子君（教育委員）

説明のために出席した者

水野伸治君（事務局長）　下園芳明君（教育総務課長）
木村正男君（学校教育課長）　後藤道広君（学校給食センター所長）
奥田晋也君（学校教育課主任指導主事）　古野　寿君（学校教育課指導主事）
神谷智之君（教育研究所指導主事）　青木裕介君（教育研究所指導主事）
山本佳弘君（文化スポーツ課文化係長）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）　水野聡恵君（教育総務課総務係）
伊藤師啓君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

１　開　会
２　前回会議録の承認
３　教育長報告
４　教育委員報告
５　議　事
①議案第15号　可児市教育委員会いじめ重大事態調査委員会委員の委嘱について
②議案第16号　令和８年度使用教科用図書の採択について
③議案第17号　要保護及び準要保護児童生徒の認定について
６　報告事項
①部活動の地域移行について
７　各課所管事項
８　委員からの提案協議事項
９　その他
10　閉　会

開会　午前９時00分

開会の宣告

○　**教育長（堀部好彦君）**　おはようございます。

これから令和７年第８回教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということでよろしくお願いします。

前回会議録の承認

○　**教育長（堀部好彦君）**　前回の会議録の承認について。

○　**教育総務課長（下園芳明君）**　前回の会議録に変更はございません。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　変更はなしということで、よろしくお願いします。

教育長報告

○　**教育長（堀部好彦君）**　では、教育長報告でございますが、その前に今机上にありましたいろいろな資料を見ている中で「ａｌａ　Ｔｉｍｅｓ」を見ていたら、館長エッセイに、篭橋館長が書いておられるエッセイ、２か月に１回エッセイが載っているんですけれど、それをちょっと見ていただけますか。

最後から２ページです。一番最後です。

館長エッセイのタイトルが「先生たちに感謝」ということで、見させていただきましたが、広見小学校でのエピソードを紹介しながら、感動を持って子供の様子を捉えてくださっているようです。「笑顔の“もと”」に照らして先生たちの取組を価値づけ、感謝の気持ちを書いてくださっています。じっくり後で読みたいなと思いました。本当にありがたいことです。このように紹介をしていただけることも、本当に感謝を申し上げたいと思いました。

では、私から３点報告をさせていただきます。

１点目、可児市ＰＴＡフォーラムです。６月28日、ａｌａで開催されました。このフォーラムのチラシを委員の方々の机上に置かせていただきました。両面刷りなんですが、これを御覧ください。

これですが、大変可児市ＰＴＡ連合会の方々、一生懸命取り組んでくださっていて、通常こういったフォーラムだとか、研究大会だとかというものについては、委員の方々も御経験あると思うんですけれども、多くは講演会があったりだとか、各学校の実践発表があったりだとかという中身で、家庭教育について、学校教育について、子ども・子育てについて考えていきましょうということでやってくださっています。そのことだけでも大変ありがたいこと、すばらしいことなんですけれども、今年はこのＰＴＡフォーラム、ここに書いてありますように、各校の代表校の実践発表だとか、講演会、座談会というようなことだけではなくて、各種アトラクションだとか、展示企画だとか、ワークショップ、販売等、より多くの方々に来ていただいて、そして子育てについて考えていただけるような工夫が満載です。

その中で私特にうれしかったのが、こちらの座談会でお話をしてくださる校長先生の写真が載っているところを御覧ください。

これの右側の真ん中の右辺り、ホワイエ展示、広陵中学校「文化部」参加型寄せ書きとあるんだけれど、この広陵中学校の文化部の協力で掲示コーナーを作ってもらったそうです。私も見に行ったんですけれども、寄せ書きを参加者から募って、その寄せ書きを文化部の子が作ってくれた掲示に貼っていくんですね。何を貼るのかということなんですけれども、お題があって、カードに書いて貼るんです。そのお題は何かといいますと、「どんな子供に育ってほしいですか」というお題で、参加者に書いてもらって掲示を作るという大変私としてはうれしいことでした。

なぜそう思っているかというと、どんな子供に育ってほしいかというのは、言い換えれば、どんな「笑顔の“もと”」を育みたいですかということですよね。これを私たちは今学校のずっと校長先生をはじめ学校の先生方に協力を求めた、理解を求めてきた。そしてその中で、ここ一、二年、コミュニティ・スクールの動きの中で、コミュニティ・スクールとしても地域でみんなでどんな子供を育てたいのか、どんな力を身につけさせたいのか、どんな「笑顔の“もと”」を育みたいのかということを、そんなことを話題にしていくうねりをつくっていこうと私は話をしてきているわけです。そういう中で、可児市ＰＴＡ連合会として今言ったような動きがあることは大変ありがたいなと思っています。

そういう話も、事前にこんな掲示があるよということも聞いていたものですから、この日の私の来賓挨拶の中で、今渡北小学校の取組を紹介しました。

今渡北小学校長は、コミュニティ・スクール推進のために今いろんな手を打ってくださっています。そのうちの一つとして、「笑顔の“もと”」に関するウェブアンケートを保護者に取っています。例えば「どんな力をつけたいですか」、直球勝負です。親さんに、自分の子供、どんな子供にしたいですか、どんな力をつけさせたいですかということを問いかけている。５つぐらいの項目で全て記述式なんですね。選ぶアンケートではなくて記述式のアンケートで、それが何と1,000人規模の学校なんですが、300人近くの回答があったそうです。膨大な量ですよね。記述ですから。私、その記述も全部見させてもらったんですけれど、その記述をＡＩで分析をして、校長が。どんな傾向が見られるのかということを見たところ、４つの柱に分類できたそうです。今渡北小学校の保護者の方々が、どんな子供に育てたいのか、どんな力をつけたいのかということが４つに分類できたということです。

１つはコミュニケーション。２つ目は自立心。自立、自分で立つの自立です。そして３つ目が創造。創造力です。クリエーティブ、創り上げる、創造。そして、４つ目が生活力。コミュニケーション能力、自立心、創造力、生活力に分類できたそうです。この結果を基に、校長は学校運営協議会でどんな子供を育てたいのかということについて協議、熟議を深めていきたいということでした。

そのことを来賓挨拶で紹介をさせていただきながら、この可児市ＰＴＡ連合会の取組も本当にすばらしい、コミュニティ・スクールを推進する上で大変背中を押していただいているという面持ちでお話をさせていただきました。大変うれしかったです。ほかの各校の実践、代表校の実践発表だとか、校長先生をお招きした座談会もすばらしくて学ぶところが多かったです。こんな工夫をしてくださっている可児市ＰＴＡ連合会の方々に改めて感謝を申し上げたいと思いました。これが１点目です。

２点目ですが、中体連、可茂地区中学校総合体育大会が、もう今は県大会ということなんですけれども、この地区の大会が６月、７月行われまして、私ども、私と木村課長と奥田主任指導主事の３人で手分けして３日間行ってまいりました。どの会場も活気あふれるいい大会だと思ったんですけれども、何よりも熱中症対策をはじめ、子どもたちの安心・安全を担保して、命を守るという大前提を本当に大切にしてくださっていることがいろんな動きでよく分かりました。ここについても、大会の関係者に感謝を申し上げたいなと思っています。これが２点目です。

３点目です。委員の方々の机上には研究所だよりが配付してございます。じっくりこれも読んでいただけるとありがたいですが、私いつもこの研究所だよりを読んで、可児市の教育の息吹を感じてうれしく思っているんですけれども、こと今回も大変うれしく読ませていただきました。

例えば冒頭、巻頭言、水野事務局長の文章でございますが、食育についての局長としての考えをまとめてくださっています。食材の価格の高騰で、給食費を補填するのに本当に大変なんだとか、いろいろ給食センターの大変さを述べながらも、食に対する意識や学校給食に関わる人々への感謝の気持ちが失われないようにということで、給食の無償化の動きを俯瞰したお考えを書いてくださっている大変読み応えのある文章、ありがたいと思っています。

そして、その次のページ、石黒主任指導主事が教育支援センターの現状ということで、これも石黒主任指導主事のお考えを書いてくださっています。タイトルは「一歩を引き出すのは、ただただ話を聴くこと」とあります。教育支援センターの職員、会計年度職員から学んだことをまとめてくださっています。非常に印象的な文章がありますので、この原稿の左の枠の一番下の辺りからちょっと読みます。

つながりサポーターから聞いて分かったことは、「一歩を引き出すのは、ただただ話を聴く」ということ。一人一人のペースに寄り添い、決して焦らず、諦めずに関わり続ける姿勢が児童・生徒の心を揺り動かすというのです。

謙虚に石黒主任指導主事がサポーターから学んだことを記し、つづり、市内の先生方の心に届くような文章を書いてくださっていること、すばらしいなと思います。

その次、右側、脇田指導主事の文章でございます。これも感動しました。「いのちの教育」の大切さということで、これは年度当初にお話をしました今年の方針と重点のリーフレットの中で、子供の命を守るという教育の根底のところで今年付け加えたところがありました。この付け加えたことについて書いてくださっています。

この文章、右側の段の一番下の辺り、一番下の下から６行目辺りからこれも読ませてください。

自分のことを認め、受け入れてくれる人がいる安心感は、大人でも同じではないでしょうか。命に向き合うということは「あなたを大切に思う」と伝えること。自分も他者も大切にできる心の育成が「子供の命を守る」ことにつながるのです。

「いのちの教育」の担当者として、市内の先生方に訴えかけるこの姿勢、すばらしいなと思っています。

それから、もう一つ紹介させてください。

神谷指導主事の文章です。ふるさと教育について、市長による授業と市議会による出

前授業の様子を紹介しながら、それらを価値づけ、「笑顔の“もと”」の観点から考えを書いてみえます。

これも最後のところですね。未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」のところで、どう書いておられるのか。ふるさとの人や自然との関わりから、地域の魅力や課題を知るといった探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことで、ふるさとへの誇りと愛着が育まれていきます。これが「笑顔の“もと”」なんだと言っていること、大変うれしく思いました。

共通しているのは、今申し上げたことで原稿を書いてくださった方々に対しての私の思いで共通しているのは、可児市学校教育指導の方針と重点で取り上げていることを、それぞれのお立場で、それぞれの言葉、自分の言葉でそれを語っているということです。方針と重点が飾り物になっていないなと思っています。こういった可児市教育委員会の息吹は、必ずや現場の先生方に届くのではないかなと思っています。本当にありがとうございます。

以上３点でございました。

教育委員報告

○　**教育長（堀部好彦君）**　それでは、教育委員報告に入ります。

○　**教育委員（伊藤小百合君）**　おはようございます。よろしくお願いいたします。

前回の会議からの報告になります。

７月４日に可児市学校給食センター運営委員会のほうに出席しました。その中で令和６年度の事業報告などがあったんですけれども、地産地消の推進についてというお話がありました。一部その地産地消を進めたいんですけれども、実際なかなか使えていないという話がありまして、それはやっぱり作物なので、天候が不十分だったりで収穫の時期がずれてしまって、使う予定だったものが使えなかったという報告もありました。また高齢化で、作りたくても作っている割合が減ってきているというお話もあり、なかなか計画どおりにできなくて難しくなっているということでした。

その中で、計画をもう少し事前に打合せをして、少しでも地元の作物を使えるような方向で今動いているというお話もあって、陰のところで努力されていることも伝わってきました。

また別のお話で、安全というか、衛生面の話ですごく感謝しなければいけないなと感じたお話がありました。日頃異物混入だとかに気をつけているというお話は聞いているんですけれども、実際に携わっている方たちが薄いビニール手袋をして、それを２人でペアになって、終わった後もお互いに本当に破れているところがないかとか、すごく細かく丁寧に見ているということでした。それを私たちは当然のように受けてきている部分がやっぱりあるのかなという気がして、そういういいお話を、もちろん子供にもそうなんですけれども、やっぱり子供が食べている給食を、保護者に対してもうまくそういうふうに、すごく一生懸命取り組んでいて子供たちのことを思って作ってくださっているというのをもっともっと広めていくと、給食、食に対する安全とかもそうですけれども、もっと給食に対する思い入れとかが、保護者の方も変わるんじゃないのかなというのをすごく感じました。

これについては以上です。

また、７月７日に学校訪問に行きまして、南帷子小学校、広陵中学校、中部中学校に行ってきました。南帷子小学校、全体にどこの学校の子たちも落ち着いているというのは変わらなかったんですけれども、南帷子小学校は校長先生が替わられたということもありまして、自分の思いがきちんと先生方にもまだ伝わっていないというお話だったんですけれども、校長がいずれ目指していきたいのが、困っている子に寄り添うのはずっとしてきていることなんだけれども、普通の一次支援である普通の子に対しての支援を充実させていくということに重点を置いていきたいというお話がありまして、それを大切にすることによって本当に困っている子たちに対しても一次支援というか、普通の子たちがもっと寄り添える学校にしていきたいというお話がありました。

広陵中学校は、広陵中学校も校長替わられましたけれども、「笑顔の“もと”」がたくましさという、前の臼田校長先生から引き継いでいるんですけれども、そこに対して安心感というものを付け加えて「笑顔の“もと”」にしていきたいというお話がありました。自己肯定感がやっぱり低い子が多いということで、不登校の子は15名ほどいるという話だったんですけれども、たくましさはもちろん必要なんですけれども、たくましさだけではなくて、不安でできないということが結構子供でもそうですし、大人でもそうですし、やっぱりそこに安心感を持つことで前に進めるから、たくましさに安心感を加えて「笑顔の“もと”」としてという話がありました。

その校長先生が、職員の先生方に嫌いな人はいますかというお話をされたそうで、やっぱり皆さん正直に嫌いな人はいますと言ってくれたそうです。嫌いな人でも、嫌いだからいじめられる原因にはならないというお話をしてくださって、嫌いといじめは根本的に違うので、嫌うことを否定せずに、嫌いでもその人のことを認めていくということを大切にしていきたいというお話でして、先生の考えていることが少し分かったような気がしました。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございます。

学校訪問、本当に皆さんありがとうございます。訪問をされる中で、校長のお人柄だとか、校長の教育観に触れて、思われることいろいろあるかと思います。そういったところも話題にしながら校長とお話をされると、校長も自身の気づきというんですか、ああ、僕って、私ってこんな見方をしていたんだなとかいうことになって、より「笑顔の“もと”」が磨かれていくということにもつながるんじゃないかと思いました。

それと、学校給食センター運営委員会についてもお疲れさまでした。ありがとうございました。伊藤委員が言われたことに全く同感で、本当に給食センターの職員がどんな日々努力をしているのかということについて、食材の選定、異物混入の未然防止だとか本当にいっぱいやっていることが市民に、保護者に、より広がっていくといいなと思います。

あのときに出た数字で、年間給食の提供数は166万食でしたね。毎日、年間166万食の提供の中で異物混入をゼロにするということは並大抵のことではないだろうなと。それをゼロに近づけるために、こんな努力をしているというのは私も改めて聞いて本当にすごいなと思って、これも感謝だなということを思いました。ありがとうございました。

○　**教育委員（梶田知靖君）**　おはようございます。

私のほうからは、大きく３点ほど報告をさせていただきます。
先月の教育委員会会議終了後、午後からなんですが、社会福祉法人可児市社会福祉協議会の評議員会に出席させていただきました。こちらでは１点ほど皆さんに御紹介したいことがありましたので、報告させていただきます。
令和６年度の事業報告の中で、福祉センターで開催されているそうなんですけれども、教員のＯＢの方がボランティアで週に１回月曜日、年間で令和６年度は44回開催されたそうなんですけれども、外国籍の子供たちを中心に夕方５時から７時まで、時間は６時からだったりとかばらばらなんですけれども、学習のサポートをしてくださっているという報告がありました。本当にこういった、社会福祉協議会でも子供たちを支援してくださって本当にありがたいお話だなということで報告を聞かせていただきました。
次に、市長・尾木特別顧問との懇談会、今年はｍａｎｏで開催されまして、教育長も当然いらっしゃったんですが、出席させていただきました。尾木ママからその日、午前中に東可児中学校と桜ケ丘小学校へ訪問されたということでお話を聞かせていただきまして、可児市の子供たちは本当にとてもいい子ばっかりでと褒めてくださいまして、また桜ケ丘小学校の校長先生のことを本当に神様のような方だということで、とても褒めちぎっていらっしゃいました。本当にありがたいお話ばっかりでした。
次は、７月10日と11日に学校訪問へ行かせていただきました。土田小学校へ訪問させていただいたときに、千葉校長が冒頭の挨拶の中でおっしゃられたんですけれども、多様な子供たちがいるので、寛容な心を持って子供たちに接してくださいということを先生たちにお話ししているということをおっしゃってみえました。このお話を聞いて、本当に千葉校長のお人柄が分かるようなお話だなと思いました。それから、今渡北小学校へ訪問させていただきまして、児童数は955名ということで、その中で外国籍の児童が240名見えるそうなんですけれども、そのうち日本語の指導を必要とする児童が91％で、219名ということでした。その日本語の指導が必要な児童に対して、今４名しか先生がいらっしゃらないということでして、国は18人に１人なんだけれども、岐阜県は外国籍児童に対しての先生の割合が少ないということをおっしゃってみえました。
今渡南小学校では、タブレットがとても使いやすいということで、学校訪問させていただきましたその翌週に、タブレットを使って何かできないかということで、子供たちがタブレットを使って生配信をするというお話を聞かせていただきました。たまたま昨日ちょっと仕事で今渡南小学校へ訪問させていただいて、校長もちょっといらっしゃったので、どうでしたかというお話を少し聞かせていただいたんですけど、２回開催したそうです。１回目はちょっとあれだったんですけれども、２回目はうまくできて子供たちも喜んでいたというお話を聞かせていただきました。ちょっと内容まではお聞きできていないんですけれども、そういったお話を聞かせていただきました。
あと、タブレットだけではなくて、朝の時間を活用して書写をやって、鉛筆を使って文字を書くということも実践していらっしゃるということでした。
私がちょっと個人的に気になっていることで、今渡南小学校の運動場の南側に蛍をやっていたところ、いまみ川というところがあるんですが、そこはどうなりましたかということを校長にお聞きしまして、まだ計画段階ではあるんですけれども、ローソンがやっている緑化貢献事業で、植樹をする活動があるそうで、そこと今連携ができないかな

ということをおっしゃってみえました。

報告は以上になります。提案事項になるかもしれませんが、土田小学校へお邪魔したときに、校長が、何か教育委員会に要望はありませんかというお話の中で、夏休みに入ってからエアコンのフィルター掃除を先生方でやっていて、脚立に乗ってフィルターを外して掃除をするというのが結構大変だということをおっしゃってみえました。昨日も今渡北小学校へお邪魔したときにフィルターが外してあって、たまたま教室にいらっしゃった先生にお話を聞きましたら、女性の先生だったんですけど、私たちでやっていて、ちょっと脚立に上るのもやっぱり怖いということもおっしゃってみえました。私もちょっと仕事柄、脚立に上ったりする仕事もあるんですけれども、結構脚立、２メーター以下で脚立から転落をして死亡する事故というのもあったりします。学校の先生なので、ヘルメットとか多分かぶっていないと思うので、そういった安全面を考えても、もし来年度からの予算要求で間に合うのであれば、学校のエアコンフィルターの、今は準備室、特別教室にもついておりますので、そういうエアコンフィルターの清掃なんかも盛り込んでいただけると、学校の先生方の負担にならないのかなということを思いました。以上になります。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございます。

学校訪問等でいろいろな情報をつかんでくださって、こういったところで共有していただけること、本当にありがとうございます。貴重な情報ばかりで。

まず、今のエアコンのフィルターについては、教育総務課長、日にちがあるかなと思いますので、考えていただけるとありがたいです。

○　**教育総務課長（下園芳明君）**　分かりました。

○　**教育長（堀部好彦君）**　それからもう一点、可児市社会福祉協議会で、教員ＯＢが外国籍の児童・生徒の学習サポートをしているということなんですけれども、私、これもあまり詳しく分かっていないんですけど、社会福祉協議会の方が取りまとめてくださっているんですね。

○　**教育委員（梶田知靖君）**　そうですね、はい。

○　**教育長（堀部好彦君）**　事務局長、すみませんが、可児市社会福祉協議会にちょっと連絡を取っていただいて、お礼とともに、どんな方々が、どこでどのようにやってくださっているのかということをちょっと取材していただけるとありがたいです。

○　**事務局長（水野伸治君）**　はい、分かりました。

○　**教育長（堀部好彦君）**　１つ思ったのは、これはフレビアとはまた別にということなんですよね。

○　**教育委員（梶田知靖君）**　そうですね。

○　**教育長（堀部好彦君）**　そうですよね。大変これはすばらしいなと思うとともに、このように関わってくださっている方々の中に、学校をよりもうちょっと積極的に手伝っていただけるような方が見えないかなということも思いまして、ちょっと聞いてみたんですけれど、ちょっと取材をしていただけるとありがたいです。ありがとうございました。

○　**教育委員（小栗照代君）**　おはようございます。

学校訪問ですが、７月７日、10日、11日に４校回らせていただきました。

ほかの教育委員さんがおっしゃったことはちょっと省きながらお話をしたいと思うんですけれども、広陵中学校につきまして、プールの委託のことについてなんですけれども、中学校はプールをなくしてもいいので、小学校のうちに、今民間のところにお願いしているんですが、そのような感じでそこにお金をかけて、小学校のうちに泳げるように方向性を持っていったほうがいいのではないかということをおっしゃってくださいました。

確かに我が家の子供たちを見ても、中学校でもプールはあったんですけれども、小学校の小さいときに一応水泳の教室に行かせていれば、上手には泳げなくても、ちゃんと泳げるということを実感していますので、本当に万が一のときにはやっぱり泳げるということはすごく大切だろうなと思います。ですから、校長がこのお話をしてくださったときには、確かにそういったところに重点的にお金をかけるということは大切だろうなと。もちろん中学校でもお金かけられればいいんですけれども、どこにかけるかというと、そこにかけるというお話をしてくださって、おっしゃっていることがすごく理にかなっているなと思いました。

それから中部中学校ですけれども、スマイリングルームが近くにあったときは、スマイリングルームに通っている子が多かったんですけれども、遠くなって行く子が減ったというお話がありました。やはり通うための足であったりとか、それから距離感で、近いところなら行けるけれども、遠いとなかなか足が向かないというようなこともやっぱり出てきているんだなというところは実感しました。

続いて土田小学校ですけれども、外国籍児童が35％というお話を伺いまして、本当にどんどん増えているなと思ったんですけれども、そのときに、外国籍担当の先生に何かお困り事はないですかというお話をしましたら、特にないというような御返答だったんですね。二、三年前のときには、かなりいろいろなことをおっしゃってくださった記憶があったんですけど、同じ担当の先生がそんなにないですよみたいにお話をしてくださったのは、やはり校長が寛容な心を持ってという方向で学校運営していただいているので、そういう目線で見ると、そんなに問題意識を持たずに、先生方もだんだん慣れてきたというのもあるでしょうし、うまく運営されてきているというところもあるんでしょうけれども、そういったところ、先生方の考え方もちょっと変わってきていらっしゃって、うまくなってきているのかなと思いました。

ただ、私たちにお伝えいただけないところでも、いろいろきっと問題点があるのかもしれませんので、そういったところは気にしながら、注視しながらも見させていただきたいなと思いました。

それから今渡北小学校ですけれども、先ほど梶田委員がおっしゃったように、外国籍担当の先生が少ないと。本来であれば13人のところを４人しか先生がいないという。かなり先生の数が少ないという、加配がというお話をしてくださいました。

それと駐車場が少ないということで、今回もプールを民間にお願いしたので、プールの跡地をぜひ駐車場にできないかというようなお話をされました。実際、今渡北小学校の前を通りますと、本当に学校に入っていく車が時間帯によってはかなり並んでいて、国道のほうにいっぱい並んでいるというところも、私も何回か見たことがありますので、やはり一般の方々にも御迷惑ですし、先生方も大変だろうなと思いました。

それから今渡南小学校ですけれども、「安心感」という言葉と同時に「わくわく感」という言葉、以前からおっしゃっているんですけれども、かなりこの辺りを強調しておっしゃってくださって、校長室にも安心して子供たちが入ってくれる雰囲気づくりであったり、実際に子供たちが本当に校長先生に会いたいということで入ってこられる雰囲気をおつくりになっていらっしゃるのは、先生のお人柄というか、大変すばらしいなというふうに拝見させていただきました。

今回学校訪問をさせていただいた、ちょっとどこの学校だったか忘れてしまったんですけれども、こういった私たちが学校訪問させていただくに当たって、以前ですと、教育委員の方がいらっしゃるので、きちっとして、びしっとして、いいところを見せなきゃみたいな雰囲気であったり、厳しい御指導をいただけるみたいなイメージだったんですけれども、いろいろと相談事を聞いていただける雰囲気がすごくよかったというようなお話をしてくださった学校がございました。

そうやって思っていただいて、心を少しでも開いていただいてお話をしていただけるようになってきて、ああ、よかったなと思うと同時に、いつも教育長がぜひそういったことをお話しできるような雰囲気づくりをしてというふうにおっしゃってくださったのをふとそのときに思いまして、少しでもそういった雰囲気になってお話ししていただけるようになってよかったなと思いました。

それと、今回も給食を３回とも頂くことができまして、おいしく頂きました。本当にありがとうございました。毎年楽しみなんですけれども、本当に今回もおいしく頂けてよかったなと思っています。

それと、今さらですけれども、今報告させていただいたのはお話を聞いた中の本当に一部分のところで、各校長、やはりこの議事録をしっかり読んでくださっている先生方も多いようでして、ああ、うちの学校のこと、ここで報告がないというふうに思っていらっしゃるのかなというのを私は常々思ってはいたんですけれども。

○　**教育長（堀部好彦君）**　これを読んでくださっている校長が。

○　**教育委員（小栗照代君）**　はい。この会議の議事録を読んでいますとおっしゃる先生が何人かいらっしゃいました。それで、ここで報告を全部できないですので、ちょこちょこと報告させていただいているんですが、事務局の方ももちろん御参加していただいていろいろと多分メモ取ったりとかしてくださっているので、その他のことは、私たちが話をしなくてもちゃんと対応していただけているということをちょっと今確認したかったんですけれども。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

いろいろなありがたいお話を今お伺いしたんですけれども、教育委員に求められる資質、偉そうな言い方なんですけれども、私は、こと可児市において求められる資質というのは、校長とよい関係、よい人間関係、信頼関係を構築できるコミュニケーション能力だとか、物の見方、考え方、教育観を持っておられる方だと思っています。それを私としては筆頭に上げています。

いつもいろいろな報告をいただいているんですけれども、これは校長先生が教育委員の方々に心を開いて、聞いてもらえるという気持ちで心を開いてお話をいつもしてくださっているということを感じて、ありがたいことだと思っています。

それからもう一つ、プールのことで駐車場にだとか、それから水泳の指導はとかいうお話がありました。これも大変貴重な御指摘かと思いますので、今後事務局でも考えていただけるとありがたいと思いました。

以上です。ありがとうございました。

○　**教育委員（長井知子君）**　おはようございます。よろしくお願いします。

学校訪問について印象に残ったことをお話しさせていただきます。

まず今渡南小学校ですけれども、こちらは校長先生がわくわく感をすごく大切にされていて、「笑顔の“もと”」を何にしようと考えたときに、教育長に自分が大切にしてきたことを思い出せばいいんじゃないとアドバイスを受けて、それでわくわくだと思って、それにしたということを言われていました。なので、校長室に入ると、子供たちの似顔絵だとか、校長の手作りのおもちゃだとかが置いてあって、すごく校長室がオープンだなというのを感じました。

わくわく感って、子供も大人もそうですけど、自分が好きなこととか得意なことでないとやっぱり続けられないというか、苦しくても、それは続けられるんじゃないかなという思いもあったり、中部中学校の校長が言われていたんですけれども、やっぱり今の子供たちは続けることがなかなかできないということを言われていて、そういうことからもわくわく感、自分は何が好きなのかというのを子供たちが見つけられるとすごくいいんじゃないかなと思いました。

次に、土田小学校です。土田小学校で最後に教育委員会としてできることありますかとお聞きしたときに、ちょっと私は勉強不足なのと、教育に詳しくないので、うまくお伝えできないんですけれども、多分支援学級の子供たちだとか、外国籍の子の支援を要する子たちだとか、そういう子たちに対しての教師の研修の場が欲しいということを言われたような気がします。ちょっとうまく説明できないんですけれども、よろしければ、土田小学校の先生方のその思いを一度聞いていただけたらと思います。

あと、今渡北小学校と広見小学校ですけれども、先ほどお話もありましたが、やっぱり駐車場がないということで道路がどうしてもすごく渋滞してしまうと。どこの学校でも言われますけれども、今はやっぱり昔と違って送迎する保護者が多いので、なかなか今の環境に対してうまくいけていないというのがあり、御近所の方からお叱りを受けることがあると言われていました。これに関してはなかなか難しい問題で、整備とかもお金がかかるので、どうなのか分かりませんけれども、そういったことを割と先生方が深刻に考えられていらっしゃったので、一つの情報としてお伝えさせていただきます。

あと、学校訪問終わりましたが、いろいろな学校でお話しさせていただいて思ったことが、不登校の数がすごく何か一昔思うと、減ってきたんじゃないかというのを思いました。やっぱりお聞きすると、各学校で、独自の不登校の子たちに対する会議だとか、そういったことをやっぱりされていらっしゃるのと、スマイリングルームの皆様方たちの御尽力のおかげだなというのを強く感じました。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

今渡南小学校の校長の「笑顔の“もと”」のわくわく感ですが、ここでも紹介させてもらったことがあったんですけれど、彼はこれで今渡南小学校４年目で、今年役職定年なんです。１年目、彼が語っていた「笑顔の“もと”」はわくわく感ではなかった。前

任の校長から引き継いだものについて語っていた。私はそれを見て、失礼ながらその語りは彼自身の本当の思いではないなということを感じたので、懇談で。懇談の終わりか終わってからかちょっと忘れましたが、あなたが一番やりたいことって、これじゃないだろうという話をして、何なのと聞いたら、わくわく感と。どうしてと聞いたらいろいろ語ってくださって、その語りの中で印象に残っているのは、彼自身が初任の頃に出会った先輩の先生から教えていただいた授業論とか、学級経営論だとか、その論に基づいた実践、それが自分の教員生活、教員としてのベースになっていると言っていたんですね。じゃあ、それを「笑顔の“もと”」にしたらどうという話をして、彼はその方向で今３年、その後３年、４年と一貫した指導をしてくださっているのかなと思ってお聞きをしました。

これ、教育委員の方御自身も、「笑顔の“もと”」って何だと思いますかと聞かれたら、きっとお答えいただけるものがあるんじゃないかなと思うんですけれども、いろいろな方々と話をする中で、御自身の教育観というものを磨いていただけるとありがたいなということも同時に思いました。

特別支援教育についての勉強をしたいという先生方がいらっしゃるというのは大変ありがたいなと思っています。特別支援教育は、今や特別支援学級の子供たちに携わる先生方のものではない。これはいじめの未然防止だとか、不登校の未然防止だとかということにもつながることだと思っています。特別支援教育の観点を踏まえた児童・生徒理解、深い理解があって、その子が生き生きと学校に来て、子供たちと、仲間と一緒になって喜びを分かち合うような活動に参加して、そういった観点がとても大切じゃないかなと思っています。

特別支援教育の観点を踏まえた児童・生徒理解、その理解に基づいた教育活動を展開していくことが、ひいては特別支援学級の子供たちだけではなくて、全児童・生徒の「笑顔の“もと”」を育んで、いじめ未然防止、不登校未然防止につながると捉えています。これが包括的な教育支援のうちの一つじゃないかと今考え始めていますので、きっと事務局も特別支援教育をどうやって広げていったらいいだろうかということについては考えてくれていると思っています。

それから、駐車場の話もいろいろ大変なところで、教育総務課長、頭の痛い。本当に課長も日々学校の状況を踏まえて、どうしようということで考えてはいるんですけれども、また今日いろんな教育総務課関係の施設・設備のことも含めた、そういった関係の現場の声が聞こえてきましたので、また逆にリターンというか、現場の生の声を直接お聞きしながら考えていくことも大切じゃないかなと思います。よろしくお願いします。

大変貴重な情報ありがとうございました。今後の参考にしていきたいと思います。

議事

○　**教育長（堀部好彦君）**　それでは、議事に入ります。

○　**事務局長（水野伸治君）**　それでは、議案書を御覧ください。

表紙の裏ページ、目次のとおりでございます。

本日は議案が３件です。

議案第15号　可児市教育委員会いじめ重大事態調査委員会委員の委嘱について、議案

第16号　令和８年度使用教科用図書の採択について、議案第17号　要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上３件についてよろしくお願いします。

○　**教育長（堀部好彦君）**　本日の議事の議案第16号　令和８年度使用教科用図書の採択について、議案第17号　要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の不登校児童生徒の状況について及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてに関しては、意思形成に係る案件や個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

それでは、議案第15号　可児市教育委員会いじめ重大事態調査委員会委員の委嘱についてを議題といたします。

○　**教育総務課長（下園芳明君）**　お手元の議案書１ページを御覧ください。

議案第15号　可児市教育委員会いじめ重大事態調査委員会委員の委嘱について。

可児市教育委員会いじめ重大事態調査委員会委員を次のとおり委嘱する。令和７年７月25日提出、可児市教育長　堀部好彦。

記、委嘱委員。氏名、藤田聖典。住所、多治見市本町１丁目122番地。委嘱理由、岐阜県弁護士会からの推薦による。委嘱期間、令和７年７月25日から令和９年３月31日まで。

５月の教育委員会会議において、３名の委員の委嘱の議決をいただきましたが、今回新たに岐阜県弁護士会からの推薦がありましたので、新たに委嘱するものです。今回議決いただくことで４名、令和９年３月31日までいじめ重大事態調査委員をお願いすることになります。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ただいまの事務局の説明について御質問、御意見等ありますでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

特にないようですので、この件については原案のとおりとすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり可決します。

報告事項

○　**教育長（堀部好彦君）**　それでは報告事項、部活動の地域移行についてを議題とします。

○　**文化スポーツ課文化係長（山本佳弘君）**　別紙３というＡ３の横向きのカラーになったものを御覧いただければと思います。

表面のほうに、一番上、可児市における部活動改革プランというものが書いてあります。

ここに、文化スポーツ課のほうが、部活動地域移行というのが今言われておりますの

で、それに基づいて今こんな感じになっておりますというのが図になったものです。
概要ですが、説明させていただきます。
国において、休日の部活動を段階的に地域へ移行することを推進しており、これを受けて、可児市においても令和６年度から休日の活動を地域クラブ活動に移行しています。
休日の活動の受入先については、従来の学校から総合型地域スポーツクラブとなっています。休日の指導者が学校の顧問から地域の指導者に替わり、事務手続や事故等の対応が、学校だったものがＵＮＩＣに替わります。
休日の地域クラブ活動は、学校部活動を補完する活動として位置づけていますので、学校部活動にある種目を基に、中学校区を基本単位として編成しています。ＵＮＩＣへの加入に際して1,000円の年会費をお願いし、活動に係る保険料や地域指導者への謝金は市が負担しています。
休日の活動体制については、市からの委託事業としてＵＮＩＣに地域クラブ活動を設置し、各中学校の部活動を基とした活動を行っております。これが表面に書いてあることの概要になります。
続いて、裏面になります。
ちょっと具体的な中身が書いてありますので、資料左側ページを御覧ください。
可児市全体で活動、チーム編成ができる体制というものをつくっておりまして、２つのパターンを展開しています。
パターンの１としては、部活動にあるチームを編成するための手法で、基本は単独型として１つの学校でやるということです。単独でできない場合は合同。２つの学校がくっつく。合同でもできない場合はオール型という形で中学校全部です。ここがくっついてチームを形成するというものになっております。
また、２というものとしては拠点校型というもので、自分の学校にない種目でもほかの学校にあるものであれば、地域クラブ活動としてそちらの学校のほうに加入できるというこの２パターンでやっております。
令和７年度から新たに始めたものがあるんですが、地域指導者の中に、地域指導者とは呼ぶんですけど、本当の指導者とサポーターという２つの区分を設けまして、両方に報酬が出るようにしました。ちょっとずつ報酬の中身は違うんですが、今まで指導者だけにしか支払われていなかった謝金があるんですけど、これをもうちょっと広げて、サポーターという区分の方にもお支払いができるようにというものが今年度からやっております。
来年、令和８年度以降についてなんですけど、こちらは休日の指導部分以外、今は指導部分だけなんですが、施設の予約とか、そういった別の部分、そういう指導以外のところも地域移行を進めていって、これはもっと後になるんですけど、さらに平日どうしていくかというのが国・県のほうでも検討されていますので、こちらも国とか県が方針を出し次第、それに合わせて可児市も動いていくという感じになっておりますので、この後もまだまだこの地域移行の改革というのは続いていって、令和十何年かまで、もうちょっとかかるということで、様子が見えてくるのかなという状態になっております。
簡単ですが、説明は以上です。
○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございます。

今の説明につきまして、御質問、御意見等ございますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

今年からの御担当ということで、前任から引き継いでやるというのは、本当に全市的な動きで課題もいろいろあるかと思うんですけれども、本当に大変だろうなと思っているわけですけれども、引継ぎ等において、現状可児市における部活動改革で課題、一番の課題とか、２つ３つとかいうような引き継がれたこともあると思うんですけれども、例えばどういったものが課題ということで引き継がれていますか。

○　**文化スポーツ課文化係長（山本佳弘君）**　そうですね、課題幾つもあるんですけど、やっぱり大きいものとしては、学校側の地域部活動と部活動のイメージの違いが、僕らはこういうふうだと思うんだけど、学校はどうやって思っているかなという、そこの違いに差があるので、そこを学校教育課と今まであまり共有して話し合ってという部分が持てていなかったので、もうちょっと学校教育課と文化スポーツ課と一緒になって、目指していく方向を決めて、学校にもこういうふうですという説明をさせていただいて、学校側もこうやって思っているよというイメージをこちらもいただいて、情報共有をしながら、いいものをつくっていかなければいけないというのが一番大きいところではあると思います。

○　**教育長（堀部好彦君）**　なるほどね。目指すところについての共通理解ができていないというのは、本当にボタンの掛け違いというのか、ひいては子供の望んだ活動にならないということにつながってはいけないので、本当に根本的なところかなと。でも、ありがちというか、なかなか共通理解しながら進めていくのは難しいですからね。なるほど、そういったことで学校教育課との連携をやっていただいているということでありがとうございます。

私として大変ありがたいと思っていることを改めて確認という意味も含めてなんですが、部活動改革とはと書いてある、そもそも可児市が目指している部活動改革は、ここに書いてあること、一番最初に説明をしてくださったところですね。左のページの真ん中、上半分の四角の中の真ん中のところ、ゴシックで書いてあるところ。

「生徒がやりたい活動ができる中学生にとって望ましいスポーツ・文化活動の実施環境の構築」を行い、「生きる力」の育成を図りますということですね。生きる力というのは、学習指導要領、国が言っている理念なんですね。子供の健全育成、生きる力を育むために部活動改革をやっていくんだという前提があることはありがたいなと思っています。その前提の方向というのは、望ましいスポーツに取り組める、子供たちがやりたいこと、望ましいことに取り組める環境をつくっていくんだというこの１点に徹してやってくださっていることが、私としては大変ありがたいと思っているので、ここで再確認をさせていただきたいなと思いました。

あと、運動部活だけじゃなくて、文化的な活動もＵＮＩＣとしては位置づけているということなんですね。防災クラブってありますよね。これは、春里小学校の教頭が中心になってやっておられるんじゃないかと思っているんですけれども、これも特色あるクラブかなと思っています。

私からは以上ですが、皆さん、よろしいですか。

○　**教育委員（長井知子君）**　前にお聞きしたことがあるんですけれど、文化部とかだ

と、例えば吹奏楽とかだと、プロの方に頼むとなるとやはりお金がという問題点があって、そういったところもクリアできそうですか。

○　**文化スポーツ課文化係長（山本佳弘君）**　そこが非常に重要なところで、今の段階ではクリアできていないというのが現状なんですけど、特にスポーツ指導者というのはやっぱりまあまあな数がいるんですけど、文化関係の特に吹奏楽だと、吹奏楽の先生をやるという方は、やっぱり楽器を自分でやれないと指導員にはもちろんなれないので、私、楽器できるから指導者やりますよという方が非常に少ないです。なので、そこをちょっとどうクリアしていくかということで、県のほうも指導員の人材バンクというのをつくっていて、足りないと派遣しますという制度がありますので、その辺を使っていくことにはなるのかなというのはありますが、現状本当にここの地域から指導者というのを探そうとすると、特に本当に吹奏楽に関しては難しいところです。

○　**教育委員（長井知子君）**　分かりました。ありがとうございます。

○　**教育長（堀部好彦君）**　指導者の確保というのも、大きな課題のうちの一つということですね。

　ほか、ありますでしょうか。

○　**教育委員（小栗照代君）**　美濃加茂市の西中学校、東中学校との合同ということも書いてあるので、そういったことで可児市以外のところとも連携を取っていらっしゃるということですか。

○　**文化スポーツ課文化係長（山本佳弘君）**　そうですね。特に美濃加茂市のほうが大きい施設というか、この夏に出来上がったと思うんですけど、あそこを特に可児市と美濃加茂市と、あと坂祝町あたりをくっつけて、同じところで練習ができるようにしたいということで、美濃加茂市と調整しながら話を進めています。

○　**教育委員（小栗照代君）**　そうなんですね。ありがとうございます。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございます。

　ほかはよろしかったですか。

〔挙手する者なし〕

　それでは、特に御意見等もないようですので、この件については報告のとおりよろしくお願いします。ありがとうございます。

○　**文化スポーツ課文化係長（山本佳弘君）**　ありがとうございます。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

（文化スポーツ課文化係長退席）

各課所管事項

○　**教育長（堀部好彦君）**　続いて、各課所管事項です。

○　**事務局長（水野伸治君）**　委員の皆さんからも御報告がありましたが、学校訪問、５月19日から７日間にかけて実施してまいりましたが、11日をもって終了いたしました。暑い日も多くて、突然大雨に降られた日もありましてとても大変でしたが、ありがとうございました。私も３日間、７校一緒に訪問させていただきましたけど、全ての学校において、学校側から意見とか要望などを吸い上げていただくような委員の皆さんが雰囲気をつくっていただいて、とても和やかに懇談、先ほど御報告がありまし

たけれども、とても和やかにということを私も印象を受けました。

また、学校から事務局に対しましても、学校施設の修繕が非常に早くやっていただいてありがたいというお礼ですとか、梶田委員からもありましたが、ｉＰａｄに替わってとても使いやすくなったと。それから、ＱｕｂｅｎａというＡＩ型デジタルドリル、個人の習熟度に合わせて最適な問題が出題されますので、とてもいいと多くの学校から好評いただきましたので、早速担当にお伝えさせていただきました。

委員の皆さんもそうですが、学校もとても忙しい中、懇談をしていただきましたが、先ほどいろいろな御報告いただきましたけど、とても貴重な機会と捉えておりますので、また今後ともよろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

○　**教育総務課長（下園芳明君）**　では、私のほうからは２点、報告をお願いしたいと思います。

まずは１点目、事務局長と同じような話になってしまいますが、教育委員の学校訪問につきまして本当にありがとうございました。全日程、無事に終了しましたことをお礼申し上げます。

やっぱり私もこういった機会がないと現場にといいますか、直接学校に訪問する機会が私はないものですから、学校の現状をこの目で見て把握できたことは、教育委員訪問といいながら、私のほうも訪問させていただいてすごく勉強になったと思います。また、委員の皆さんが校長と上手に話をしていただいて、いろいろな学校の困り事を引き出していただいたこと、本当にお礼申し上げます。

また、先ほど話ありましたように、いろいろな施設の関係やら課題のほうを教えていただきました。早速そういったものにつきましては、私が行ったときは当然私のほうから、また事務局長が行かれたときには、事務局長のほうから直接施設管理係のほうに情報共有しまして、またよりよい学校が勉強しやすい環境に、こちらのほうも積極的に取り組んでいきたいと思いますので、またその辺の御指導、また御提案のほうをよろしくお願いしたいと思います。

２点目です。

お手元、「可児市のじまんとほこり2025」冊子を配付しております。可児市のふるさと教育に使用するということで、歴史資産課で改訂版を出したということで参考までにお渡しします。昨年度お配りしたものとは大きく変わらないということです。歴史資産課によりますと、今回中学校３年生、中学校２年生及び小学校６年生全員に配付をしたとのことで、昨年度から２か年かけて小学校６年生以上の全ての児童・生徒に行き渡ったということになります。

私のほうからは以上になります。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

○　**学校教育課長（木村正男君）**　前回の会議以降の学校に係る動きをお伝えします。

先月に引き続き、先ほどもお話ありましたが、可茂教育事務所の訪問が各学校に入りました。春里小学校を最後に、市内16校訪問を終えました。市内16校、どの学校も落ち着いた環境の中で教育活動を展開しています。特にタブレットの活用の様子は、多分教

育委員の皆さんも見ていただいたんだと思いますけど、非常に使いやすいということと、つながりやすいという言葉をもらっていますので、児童も生徒も教師も活用している姿を見ていただいたかなと思います。

なお、今回の訪問で課題として指摘を受けたことは、この秋に９月、10月に今度は教育長訪問がありますので、また学校を回って様子を見届けていきたいと思っています。

２つ目です。

７月２日火曜日に定例の校長会がありましたが、その日の午後に市内小・中学校校長参加による研修会を行いました。内容は、本市のスクールローヤーの推薦による県内の弁護士を講師に迎えてハラスメントの防止に向けた研修、それから不当な要求に対応するための研修というのを実施しました。学校が様々な課題に対応するために、スクールローヤーなど弁護士に相談する件数が非常に増えてきておりますので、その意味で、その方面に詳しい弁護士の方に来ていただいて、講師を迎えて具体的な対応を学んだことはとても有意義な時間となりました。

３つ目です。

６月後半から７月にかけて、先ほど教育長からも話がありましたが、可茂地区中学校総合体育大会、いわゆる中体連の開催がありました。県大会に続いていく大会ですが、どの会場も熱心に取り組む中学生の姿が見られました。先ほど文化スポーツ課からも話がありましたが、中体連という名前がつくと、学校教職員が運営することになっています。どの会場も代表となる学校長、中心になる学校職員によって進められています。この中体連は学校を中心に動くということになっているので、地域移行を含めて、今後どのような運営をするのかについては議論していきたいと思っております。

最後です。

各学校は夏季休業に入っています。40日を超える長期休みを経て、８月29日から授業開始となります。充実した生活となるように、各学校では長期休みの過ごし方を伝えているところです。なお、学校に日直を置かない日は８月４日から16日までとなっています。この期間は県の教育委員会主催の会議、研修会も実施しないことになっておりますので、学校の教職員も夏季休暇や年休を取ってリフレッシュするようにされているところです。以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

○　**教育研究所指導主事（神谷智之君）**　教育研究所です。お願いします。

研究所より、別冊を御覧ください。

私からは２点です。

１点目、１ページ、各研修講座と初任者研修について掲載しています。これらの研修は、研修会場に参集して学ぶ会です。夏季休業中の研修により、教職員の資質向上につながるよう努めてまいります。

２点目です。不登校対策の事業について紹介します。

(1)のように、スクールカウンセラー・スーパーバイザーが市内全学校を回り、不登校児童・生徒について会議の在り方や連携の仕方、コミュニケーションスキルトレーニングの活用など、支援の方法について心理教育講習会を行っております。

(2)６月、尾木直樹先生の訪問がありました。尾木先生はこの可児市との関わりを持

って14年たちますが、可児市全体の学校の雰囲気がとても安心感のあるものに変わってきたというお話をいただきました。通室生徒の懇談の時間も和気あいあいとしたものでした。

３ページに「スマイルだより」の６月号を載せましたので、御覧いただければと思います。

私からは以上です。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

○　**学校給食センター所長（後藤道広君）**　学校給食センターからは特にございません。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ありがとうございました。

今、各課からの話がありましたが、御質問、御意見等ございますでしょうか。

○　**教育委員（長井知子君）**　ハラスメントの研修で、スクールローヤーさんを使われる方というのはやっぱり若手の先生が多いのでしょうか。

○　**学校教育課長（木村正男君）**　相談内容は多岐にわたっていまして、若い方からの相談もあれば、要は若い方に対して接する管理職が相談したい件もあったりとか、多岐にわたっています。

○　**教育委員（長井知子君）**　分かりました。ありがとうございます。

○　**教育長（堀部好彦君）**　ほか、ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

研究所よりのところで、１ページ目に各種研修の内容等が紹介されておりますが、私、この１番の(2)の初任者研修、７月29日の午後の部、スマイリングルームで行われる講話②のところ、一部参観させていただきたいなと思っておりまして、石黒主任指導主事にはその旨、伝えてあります。初任の先生方の様子を見させていただきたいということが一番の趣旨なんだけれど、この１時間40分、14時から15時40分のこの中身は、お聞きしますと、前半は青木指導主事ですか。

○　**教育研究所指導主事（青木裕介君）**　ちょっとこの日、別の出張がありまして。

○　**教育長（堀部好彦君）**　中田さんがやられるのかな。

○　**教育研究所指導主事（青木裕介君）**　はい。コンシェルジュの中田が行います。

○　**教育長（堀部好彦君）**　コンシェルジュが話をして、その後の交流を位置づけるということを聞きましたので、グループごとでの。そのときの初任者の様子を、生の声を聞いてみたいなと思って参加させていただきますので、よろしくお願いをします。

○　**教育研究所指導主事（青木裕介君）**　よろしくお願いします。

○　**教育長（堀部好彦君）**　委員の皆さんも、こういった研修、初任者研修に限らず上のほうでもいろんな講座があります。特別支援教育連続講座なんていうのもあって、先ほどの長井委員のつかんでくださっている先生方の要望に応える講座でもあるんじゃないかなと思うんですけれど、興味のあるものがあれば事前に事務局に一声かけていただいて、様子を少し、全部じゃなくてもいいですので、参観されるというのも一つ手かなということを思います。どうしてもという意味ではありませんが、興味ありましたらよろしくお願いします。

ほか、よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

委員からの提案協議事項

○　教育長（堀部好彦君）　それでは、その他に質問等ないようですので、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題とします。

何かございますでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

その他

○　教育長（堀部好彦君）　それでは、次にその他に行きます。

次回の日程等です。

○　教育総務課長（下園芳明君）　次回会議の日程についてですが、８月20日水曜日の午前９時からということでよろしくお願いします。場所は市役所４階第３会議室です。

その次の９月の日程については現在調整中です。よろしくお願いします。以上です。

○　教育長（堀部好彦君）　それでは、よろしくお願いします。

では、本日もこのまま続けさせていただくということでよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

では、これからの会議は非公開とさせていただきます。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

○　教育長（堀部好彦君）　それでは、以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会　午前10時54分